



1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上(医療の質の向上)

- ◇市民病院としての役割
 - 《救急医療》
 - 中央市民病院は市全域の基幹病院として救命救急センターの役割を果たし、365日24時間体制の救急医療を提供
 - 西市民病院は市街地西部の中核病院として午前0時までの内科系・外科系での救急医療、金曜・土曜の24時間救急医療を継続
 - 《小児・周産期医療》
 - 両病院にて医療技術の向上に努めるとともに、地域医療機関と連携して、安定的な小児・周産期医療を提供
 - 中央市民病院はハイリスクな分娩へ対応し、西市民病院は正常分娩を中心としリスクの高い分娩にも対応
 - 《感染症医療》
 - 平成21年5月に国内初の発症例が確認された新型インフルエンザの対応として、中央市民病院において予定入院、予定手術を減少させ病床を確保するとともに、両病院において発熱外来を設置し患者の受入を実施
 - 《災害時等における医療》
 - 緊急時に対処できるよう両病院において災害医療訓練を実施し、中央市民病院では災害派遣医療チーム(DMAT)研修に参加
- ◇専門性の高い医療の充実
 - 4疾病への対応として、がん、糖尿病治療を継続するとともに、中央市民病院においては脳卒中、急性心筋梗塞治療の充実を図った
 - がん治療については、患者のQOLに配慮した、より侵襲性の低い医療の提供として、内視鏡下手術、化学療法、放射線治療(連携含む)を実施
- ◇市民・患者サービスの向上
 - 患者満足度調査によるニーズ把握のもと、手術枠、診療枠を柔軟に見直すことによって、待ち時間・待ち日数対策を行った。中央市民病院においては手術枠の見直しや、土曜日検査開始に向けた準備を行い、西市民病院においては診療時間枠の柔軟な設定により短縮に取り組んだ
 - セカンドオピニオンへの対応、ホームページの充実等、市民・患者への適切な情報提供に努めた
- ◇地域医療連携の推進
 - 地域医療機関との連携を推進させ、紹介率・逆紹介率(本表右に記載)の向上に努め、中央市民病院については平成21年12月に地域医療支援病院の名称承認を受けた。西市民病院では「地域医療推進課」を新設するなど体制の強化を図り、地域医療機関との連携を推進
 - 両病院において地域医療従事者向けのオープンカンファレンスを実施
- ◇安全管理・チーム医療の推進
 - 法令・行動規範の遵守、医療安全対策、院内感染防止の徹底を図り、安全管理を徹底した質の高い医療を提供
 - 職種を超え専門職が一つになって総合的に医療を行う「チーム医療」を推進するとともに、新たなチームの結成に向け、関連診療科等による協議を進めた
- ◇医療の標準化・診療情報分析
 - クリニカルパスの運用については、中央市民病院では新病院において導入する電子カルテ上での運用の検討を進めたこと、西市民病院においては現行パスの見直し等の検討を行ったことも影響し、目標値は未達成(本表右に記載)
 - DPC対象病院に円滑に移行し、委員会を開催するとともに分析ソフトを活用したベンチマーク分析を開始
- ◇臨床研究・治験の推進
 - 中央市民病院においては、臨床研究・治験件数ともに前年度を大きく上回り、西市民病院では臨床研究件数は減少したものの治験件数は増加

2 業務運営の改善及び効率化

- ◇すべての職員がプロとして活躍し、やりがいがある病院
 - 看護職員に対する資格取得等支援(看護大学編入学、大学院留学、長期留学、短期派遣)
 - 医療技術職員に対する支援(学術研究費、臨床研究費助成)
 - 事務職員・技術職員に対する支援(新規採用職員研修、計画的な人事異動の検討)
 - 若手看護職員・薬剤師の処遇改善(初任給等の改善、薬剤師レジデント制度の創設)
 - 経験者の採用(経験者採用選考の実施、看護職員採用選考の年齢制限撤廃)
 - 職員の再雇用制度(病院経営に資する定年退職者の再雇用制度の創設)
 - 育児と仕事の両立(育児短時間勤務制度の創設)
 - 勤務体制の見直し(看護職員の2交代勤務試行実施の拡大)
 - 医療職等の負担軽減(医療クラークの活用、職員の悩み相談対応、誕生日休暇を新設)
- ◇人材の成長を促進する人事給与制度と育成プログラムの充実
 - 努力が評価され報われる人事給与制度(医師の昇任・昇格運用の見直しや新たな給与体系の構築)
 - 業績や能力の給与等への反映(認定・専門看護師手当の創設、優秀職員表彰の実施)
 - 受験資格にとらわれない採用試験の実施(経験者採用選考の実施、看護職員採用選考の年齢制限撤廃)
 - 研修制度の充実(新規採用職員研修の充実)
- ◇教育病院として人材育成への貢献
 - 教育病院としての指導力の向上(医学生向け病院見学・実習の実施、へき地医療実習)
 - 看護大学等との連携(看護学生等の受入れ)
- ◇外部評価の活用・監査制度の充実
 - 病院機能評価施設認定(両病院、平成21年更新認定、中央市民病院救急医療 平成22年2月認定)
 - 監査制度の充実(監事監査、内部監査の実施)
- ◇環境にやさしい病院づくり
 - 環境マネジメントシステム(KEMS)取得に向けた取組の推進
 - CO2排出量の削減

3 安定した経営基盤の確立(資金収支の均衡)

(単位:億円)

	20年度実績	21年度		前年度比
		目標	実績	
単年度資金収支	12.4	▲0.6	14.1	1.7
				14.7

- ◇ 21年度は、効率的な病床運用や手術枠・診察枠の運用見直しによる新規患者や手術件数の増加などに伴い、大幅な増収となり、目標を大きく上回る結果となった
- ◇ 22年度においても引き続き単年度資金収支の黒字をめざす

4 中央市民病院の再整備・医療産業都市構想

- ◇中央市民病院の再整備
 - 平成23年3月施設完成(同年7月頃新病院オープン)に向け、着実に建築工事を進行(平成22年3月末 工事進捗率31.9%)
 - 院内に新中央市民病院整備委員会及び下部組織として部会を設置し、運営に関する詳細や医療情報システムの検討を継続
- ◇医療産業都市構想への寄与
 - 中央市民病院において、先端医療センターと連携し、連携会議を開催するとともに、高度医療機器の共同利用や共同研究を実施

数値目標の達成状況

【中央市民病院】 目標値達成

	20年度実績	21年度目標	21年度実績	前年度比
紹介率 (%)※	43.6	45.0以上	47.2	3.6 2.2
逆紹介率(%)※	63.6	65.0以上	69.7	6.1 4.7
クリニカルパス数(種類)	272	300	287	15 △13
クリニカルパス適用率(%)	57.7	60.0	59.4	1.7 △0.6
経常収支比率(%)	101.6	104.2	109.1	7.5 4.9
病床利用率(%)	92.0	95.5	91.5	△0.5 △4.0
材料費比率(%)	33.7	32.5	32.7	△1.0 0.2
経費比率(%)	17.2	19.5	18.1	0.9 △1.4
給与費比率(%)	55.1	49.6	49.3	△5.8 △0.3

※ 中央市民病院は地域医療支援病院要件算定式での、西市民病院は従来算定式での「紹介率」「逆紹介率」を算出している

【西市民病院】

	20年度実績	21年度目標	21年度実績	前年度比
紹介率 (%)※	33.6	34.0以上	36.6	3.0 2.6
逆紹介率(%)※	23.5	24.0以上	22.1	△1.4 △1.9
クリニカルパス数(種類)	74	80	75	1 △5
クリニカルパス適用率(%)	24.0	30.0	22.0	△2.0 △8.0
経常収支比率(%)	94.9	95.2	104.3	9.4 9.1
病床利用率(%)	87.2	89.0	85.8	△1.4 △3.2
材料費比率(%)	24.3	23.3	23.6	△0.7 0.3
経費比率(%)	19.2	21.3	19.4	0.2 △1.9
給与費比率(%)	64.8	60.0	53.6	△11.2 △6.4